

令和2年度 自己評価について

保育者の自己評価から

保育者には、以下のような項目の自己評価を課した

(四段階評定・よくできた、できた、一部改善が必要、改善しなければならない)

- ① 保育理念
- ② 保育の実践
- ③ 環境設定
- ④ 子どもへのかかわり
- ⑤ チームの一員としての意識
- ⑥ 保護者支援

“保育理念”の項目で、理念について具体的にどのような保育をすべきか、という設問を設けた。それぞれ少しずつ表現は違っていたが、保育者が自分の言葉で目指すべき保育を語っていた。保育理念については、浸透していると受け止めることができた。

ただし、同じ理念を持っていながら保育者間での意見の相違がある。なんらかの研修等で意識統一が必要であると考ええる。

保護者アンケートから

・回収率約6割

・質問事項：

- ① 保育方針について
- ② 行事について
- ③ 子育てに関する相談に関すること
- ④ 子どもの成長（記述式）

・結果

☆ほぼ、保育理念に賛同して頂いている

☆主な好意的な意見

◎「自分の考えをしっかりと言えるようになった。」という回答が多数あった。当園の、子どもの主体性を重んじている保育方針が実を結んでいると感じられた。活動を自ら選ぶこと、これを繰り返しているためと思われる。しかし、自己主張と同時に他者理解もあわせて育んでいくことが必要になる。

○送迎のときに、保育者が丁寧に園での様子を聞かせてくれて嬉しかった。一緒に子育てをしてくれていると感じることができた。

- 保育園での出来事、保育者からの話を家庭で伝えてくれるようになった。
- 「文字や数に興味を持ち始めた。」という回答もみられた。当園は、文字・数を教えてはいない。が、環境としてあそびのコーナーに興味関心をもてるものを用意したり、掲示をしている。子ども自ら環境にはたらきかけて、自ら学んでいることがうかがえる。
- 3歳以上児の異年齢保育に対する高評価も多数あった。他者の気持ちを理解する、下の子ども面倒をみる、ケンカの仲裁をする、など異年齢集団生活ならではの成長を感じてくれているようだった。

★要望等

- 2歳児クラスから3歳以上児クラスへ進級の際、異年齢保育になることの説明がなかった、という意見があった。当園としては、当たり前のようにそれを承知して入園を決めているという認識であった。しかしこのような意見から、あらためて丁寧な説明が必要であることを感じた。
- 保育参観が中止になったのが残念であった。
- 園での様子がまったくわからず、不安を感じた。

考 察

保育者の自己評価から。

今年度は、リーダー会を定期的で開催した。正規職員全員による職員会よりも人数が少なく、活発な意見交換を行えた。また、現場で困っていることなどを相談することができた。そのため、以前よりも迷いながらの保育は減ったのではないかと、思われる。

新型コロナウイルスの関係で会議・研修の回数が減ったが、アプリ等を使用して情報共有を行うことができた。

保護者アンケートでは、昨年度同様概ね保育に対して好意的な意見が多数を占めた。

保育者と保護者の情報共有という面では、高評価と低評価の両方が混在する結果となった。保護者のタイプも様々で、情報発信の受け止め方も一人一人違う。送迎の時間帯も違う。よって、保護者の特性を見極めて、よりよいコミュニケーションを行っていく必要性が求められる。